

府民向けアンケートの実施結果について

令和6年11月27日（水） 午前10時～ 正午
令和6年度 第2回 京都府環境審議会
総合政策部会

第1章 計画策定の趣旨

■ 計画策定の背景

- ・温暖化の進行、自然災害の頻発化、生態系への影響
- ・環境対策の加速化の必要性、対策の重要性
- ・SDGs、パリ協定、第五次環境基本計画

■ 計画の位置づけ

- ・目指す将来像とその実現に向けた施策の方向性を示す
- ・環境保全及び創造に関する総合的・長期的施策大綱
- ・府総合計画の環境分野の個別計画
- ・環境教育等促進法に基づく都道府県行動計画

■ 計画期間 概ね2030年目途

第2章 京都府を取り巻く現状の認識

■ 環境政策を取り巻く社会情勢の変化

- ・人口減少・少子高齢化社会の本格化
- ・情報通信技術の急速な進展
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大

■ 京都ならではの豊かな「力（ポテンシャル）」

- ・豊かな自然環境と共生し多彩な文化を生み出す力
自然との調和を基調とした「海・森・お茶の京都」などの豊かな地域文化、伝統から先端までの多様な文化 等
- ・京都のまちづくりを支える力
大学等の充実した教育・研究機関
町衆等伝統的にまちづくりを支える協働の力
産学公民によるオール京都体制 等

■ 京都府の環境の現状と課題

- ・持続可能な社会の礎となる地球温暖化対策の推進
着実な取組の一方で温暖化は進行
緩和策の推進に加え、適応策の強化が急務
(パリ協定、IPCC1.5℃報告書
気候変動適応法、気候変動適応計画)
- ・再生可能エネルギーの主力電源化に向けた取組
再エネの導入や利用拡大を促す取組が必要
(第5次エネルギー基本計画、水素基本戦略)
- ・自然に親しみ自然とともに生きる地域づくり
希少種保全と外来生物防除等生物多様性の保全
- ・限りある資源を大切にす循環型社会づくり
廃棄物3Rに加え、海洋漂着物、食品ロス等取組推進
(G20大阪ブルー・オーシャン・ビジョン
第四次循環型社会形成推進基本計画
プラスチック資源循環戦略)
- ・府民生活の安心安全を守る環境管理の推進
大気や水質等環境基準の達成、継続

第3章 京都府の将来像（2050年頃）

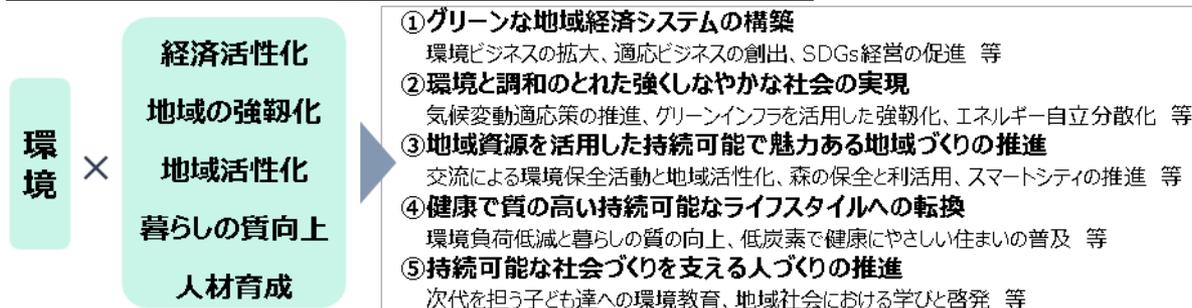
京都の「豊かさ」をはぐくむ脱炭素で持続可能な社会
～将来世代のために手を携え、環境・経済・社会の好循環を創出～

第4章 計画の基本となる考え方

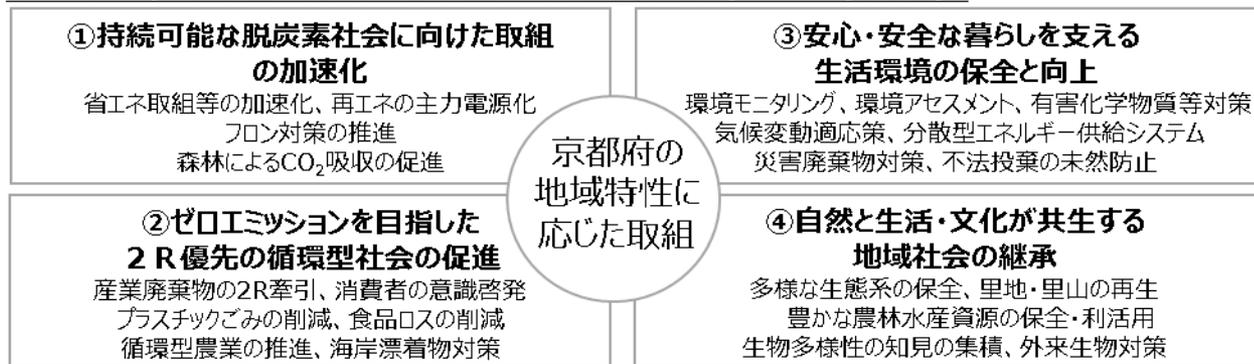
■ 持続可能な開発目標（SDGs）の考え方の活用による環境・経済・社会の好循環の創出

- 環境・経済・社会の統合的向上、複数課題の同時解決、マルチベネフィット ⇒ 分野横断的施策の展開
- ・京都に存在する地域資源の活用
 - ・多様なパートナーシップや中間支援組織の活性化・コーディネート機能の発揮
 - ・環境問題に携わる人材育成と協働取組の推進

第5章 分野横断的施策の展開方向（2030年目途）

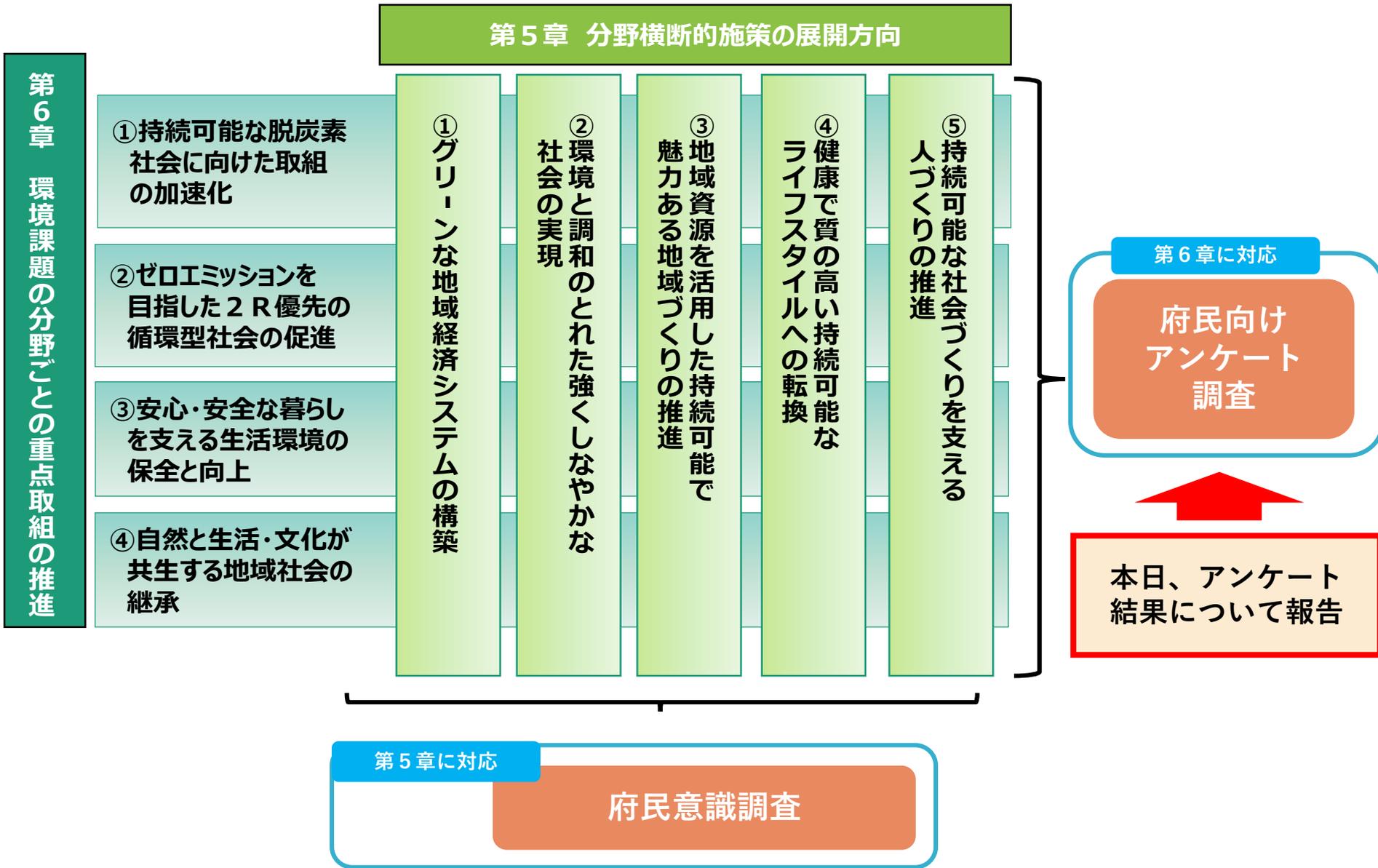


第6章 環境課題の分野ごとの重点取組の推進（2030年目途）



第7章 計画の推進

- ・本計画に記載した施策展開の方向に基づき機動的に個別条例や個別計画を策定・改定
- ・京都府環境審議会における検証等徹底したP D C Aサイクルにより進行管理を実施。概ね5年後に見直し。



【目的】

- ①パイロット的アンケート調査では対応できなかった第6章に掲げる環境課題の重点分野ごとに掲げる具体的施策について、府民・事業者が実感する進捗度合を確認
- ②府民・事業者が考える今後重要と感じる施策を問うことで、基本計画見直しのための情報収集を実施

【実施期間】

2024(令和6)年8月～2024(令和6)年10月

【対象者（サンプル数）】

1,000人

（京都府の人口構成に比例するよう市町村ごとに回収数を割り振る）

【調査手法】

インターネットによるWEBアンケート（委託にて実施）

- 第6章に記載されている4項目、「脱炭素社会の実現」、「循環型社会の実現」、「安心・安全な暮らしの実現」「自然と生活・文化が共存共栄する持続可能な社会の実現」のための施策の認知度、評価について調査。

認知・評価する：1又は2を選択
認知：1～4を選択

Q. 以下の第6章の4項目に記載されている各施策に対して、あなたの考えに近いものを1つお選びください。

- 【選択肢】 1. 施策を知っており、取組をととも評価 / 2. 施策を知っており、取組をやや評価 /
3. 施策を知っているが、取組をあまり評価しない / 4. 施策を知っているが、取組を全く評価しない /
5. 施策を知らない

	【第6章①】 脱炭素社会の実現 に向けた施策	【第6章②】 循環型社会の実現 に向けた施策	【第6章③】 安心・安全な暮らしの実現 に向けた施策	【第6章④】 自然と生活・文化が共存共栄する 持続可能な社会に向けた施策
1	省エネ取組等の加速化	産業廃棄物の2Rの推進	環境モニタリングの実施	多様な生態系の保全
2	再生可能エネルギーの主力電源化に向けた取組	消費者の意識啓発	環境影響評価制度の総合的な取組の展開	人の積極的な関与による里地・里山の再生
3	フロン対策の推進	プラスチックごみの削減	有害化学物質等による環境影響の防止	豊かな農林水産資源の保全・利活用
4	森林によるCO ₂ 吸収の促進	食品ロスの削減	地域特性に応じた気候変動適応策の推進	生物多様性を未来に受け継ぐための知見の集積
5		循環型農業の推進	分散型エネルギー供給システムの構築	外来生物による生態系等への影響に対する早期対策
6		流域一帯で取り組む海岸漂着物対策	災害時の廃棄物処理体制の強化	
7			不法投棄等の未然防止	

- 全体的に、京都府の施策を認知している割合は、5割を切っており低調。このため、京都府施策の情報発信の強化等が課題。
- 認知度が5割を超え、認知度が比較的高い取組は、「プラスチックごみの削減」、「食品ロスの削減」。

【脱炭素社会の実現】
に向けた施策

施策	n=	認知・評価する	認知
省エネルギーの取組等の加速化	1,000	25.1	39.3
再生可能エネルギー等の導入推進	1,000	22.9	39.7
フロン対策	1,000	22.0	38.0
森林の拡大や保全・整備などの取組	1,000	23.6	39.6

【循環型社会の実現】
に向けた施策

施策	n=	認知・評価する	認知
産業廃棄物の2Rの推進	1,000	22.6	38.4
消費者の意識啓発	1,000	26.2	43.5
プラスチックごみの削減	1,000	34.1	56.3
食品ロスの削減	1,000	29.6	50.8
循環型農業の推進	1,000	21.9	38.9
流域一帯で取組む海岸漂着物対策	1,000	19.3	36.2

【安心・安全な暮らしの実現】
に向けた施策

施策	n=	認知・評価する	認知
環境モニタリングの実施	1,000	18.3	30.1
環境影響評価制度の総合的な取組の展開	1,000	14.8	30.1
有害化学物質等による環境影響の防止	1,000	16.6	32.3
地域特性に応じた気候変動適応策の推進	1,000	18.7	34.9
分散型エネルギー供給システムの構築	1,000	16.3	33.9
災害時の廃棄物処理体制の強化	1,000	15.3	30.6
不法投棄等の未然防止	1,000	15.1	34.9

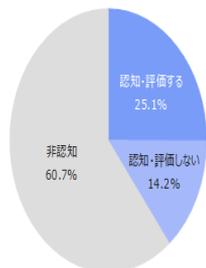
【持続可能な社会の実現】
に向けた施策

施策	n=	認知・評価する	認知
多様な生態系の保全	1,000	22.6	35.1
人の積極的な関与による里地・里山の再生	1,000	22.4	37.7
豊かな農林水産資源の保全・利活用	1,000	20.4	38.2
生物多様性を未来に受け継ぐための知見の集積	1,000	18.0	35.5
外来生物による生態系等への影響に対する早期対策	1,000	17.2	35.0

- 「省エネルギーの取組等の加速化」「消費者の意識啓発」「プラスチックごみの削減」は、施策を認知している府民のうち、6割を超える方が評価をしており、一定の評価をいただいている状況。

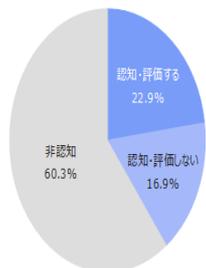
■ 脱炭素社会実現に向けた施策

【省エネルギーの取組等の加速化】



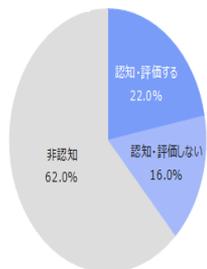
認知計 39.3%
認知者の評価割合 63.8%

【再生可能エネルギー等の導入推進】



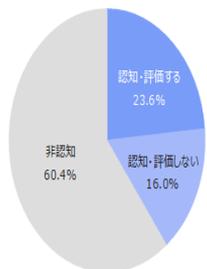
認知計 39.7%
認知者の評価割合 57.6%

【フロン対策】



認知計 38.0%
認知者の評価割合 58.0%

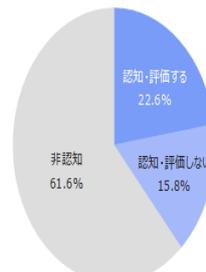
【森林の拡大や保全・整備などの取組】



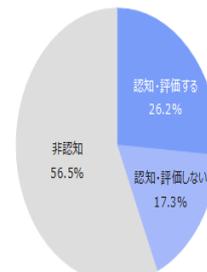
認知計 39.6%
認知者の評価割合 59.6%

■ 循環型社会の実現に向けた施策

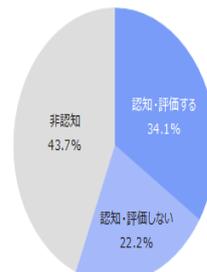
【産業廃棄物の2Rの推進】 【消費者の意識啓発】 【プラスチックごみの削減】



認知計 38.4%
認知者の評価割合 58.8%

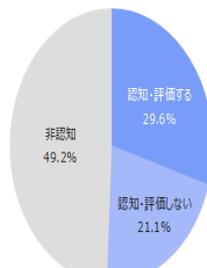


認知計 43.5%
認知者の評価割合 60.2%



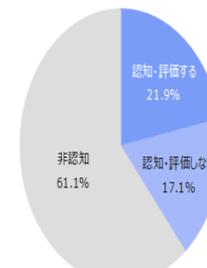
認知計 56.3%
認知者の評価割合 60.6%

【食品ロスの削減】



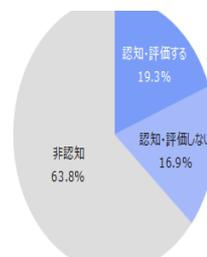
認知計 50.8%
認知者の評価割合 58.4%

【循環型農業の推進】



認知計 38.9%
認知者の評価割合 56.1%

【流域一帯で取り組む海岸漂着物対策】



認知計 36.2%
認知者の評価割合 53.3%

- 「環境モニタリングの実施」「多様な生態系の保全」は、施策を認知している府民のうち、6割を超える方が評価をしており、一定の評価をいただいている状況。

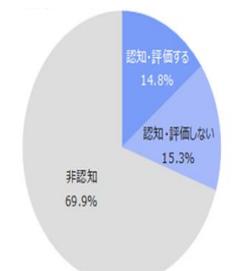
■ 安心・安全な暮らしの実現に向けた施策

【環境モニタリングの実施】



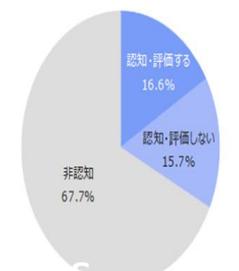
認知計 30.1%
認知者の評価割合 60.8%

【環境影響評価制度の総合的な取組の展開】



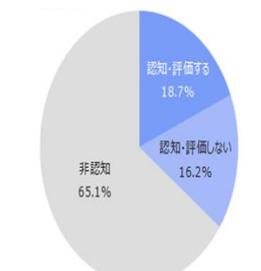
認知計 30.1%
認知者の評価割合 49.3%

【有害化学物質による環境影響の防止】



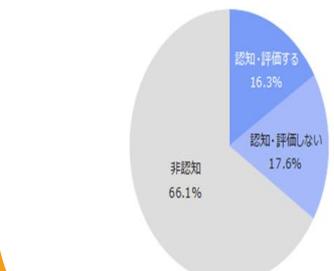
認知計 32.3%
認知者の評価割合 51.5%

【地域特性に応じた気候変動適応策の推進】



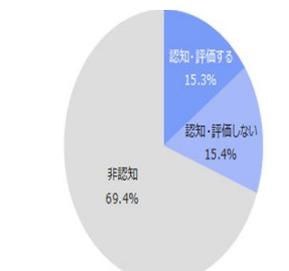
認知計 34.9%
認知者の評価割合 53.7%

【分散型エネルギーシステムの構築】



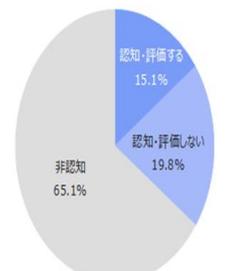
認知計 33.9%
認知者の評価割合 48.1%

【災害時の廃棄物処理体制の強化】



認知計 30.6%
認知者の評価割合 49.9%

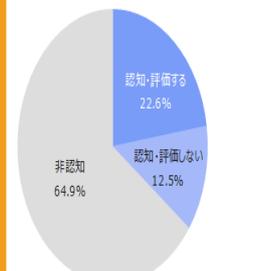
【不法投棄の未然防止】



認知計 34.9%
認知者の評価割合 43.2%

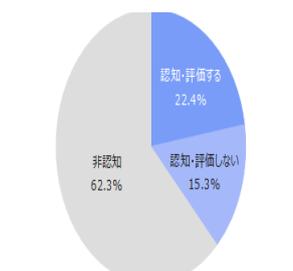
■ 自然と生活・文化が共生する持続可能な社会を将来に引き継ぐための施策

【多様な生態系の保全】



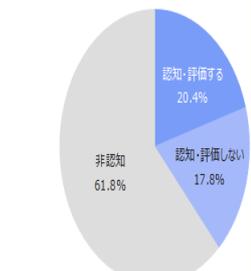
認知計 35.1%
認知者の評価割合 64.4%

【人の積極的な関与による里地・里山の再生】



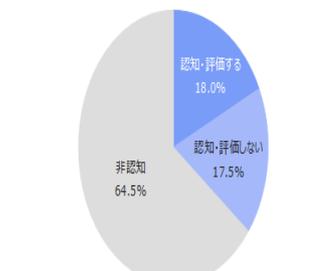
認知計 37.7%
認知者の評価割合 59.5%

【豊かな農林水産資源の保全・利活用】



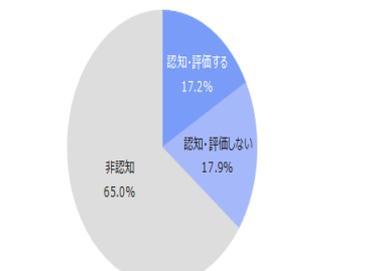
認知計 38.2%
認知者の評価割合 53.4%

【生物多様性を未来に受け継ぐための知見の集積】



認知計 35.5%
認知者の評価割合 50.6%

【外来生物による生態系等への影響に対する早期対策】



認知計 35.0%
認知者の評価割合 54.0%

- 第6章に記載されている4項目、「脱炭素社会の実現」、「循環型社会の実現」、「安心・安全な暮らしの実現」「自然と生活・文化が共存共栄する持続可能な社会の実現」のための具体的取組について、府民が取組が進んでいる／進んでいない／重要だと考えるものを調査。

例) (第6章①) 脱炭素社会実現に向けた施策

現在の
評価

- Q. 以下の1～11の具体的取組のうち、特に取組が進んだと感じるもの、進んでいないと感じるものを第1位から第3位としてそれぞれ1つずつお選びください。**
- Q. 前問で、取組が進んだと感じるもの、進んでいないと感じるものとして選択した理由を記入ください。（自由記述）**

今後の
重要施策

- Q. 以下の1～11の具体的取組のうち、あなたが特に重要だと考えるものを第1位から第3位としてそれぞれ1つずつお選びください。**
- Q. 前問で選んだ重要だと考える取組のほか、重要だと思う施策を記入ください。（自由記述）**

施策	具体的取組		施策	具体的取組
1	高効率な省エネ家電への買換えや、建物の断熱化や太陽光パネル設置	7	再生可能エネルギーの主力電源化に向けた取組	再生可能エネルギーの導入や熱利用の促進
2	省エネ機器への設備投資等、企業における取組	8		既存の再生可能エネルギー設備の適切な保守点検や修繕等による、長期安定的活用
3	地産地消の取組	9		水素エネルギーに対する正しい理解と府内における需要拡大
4	モーダルシフトやムーブシェア、エコドライブ、次世代自動車への買換え	10	フロン対策	地球温暖化やオゾン層破壊の原因となるフロン類を使わないノンフロン型機器の利用促進
5	宅配ボックスの活用や宅配便の受取方法の多様化等による再配達削減	11	CO2を吸収する森林の拡大や保全・整備等の取組	適切に管理された森林の拡大や木材利用促進等により、CO2を吸収する森林の拡大や保全・整備等の促進
6	効果的・効率的な省エネサービスの導入や環境に優しい商品を取り扱う企業の成長			

アンケート結果の基本計画見直しへの反映に係る方向性

府民の感覚		今後の方向性
今後の 重要度 高	進んでいる	<ul style="list-style-type: none">・ <u>次期計画へ引き続き記載。</u>
	進んでいない	<ul style="list-style-type: none">・ <u>次期計画へ引き続き記載。</u> (府民が進んでいないと感じる理由を検証し、府民のニーズに対応するための具体策や手法を検討。次期計画の見直しに反映。)
今後の 重要度 低	進んでいる	<ul style="list-style-type: none">・ <u>府として、取組の重要度を再検証し、次期計画に引き続き記載するか検討。</u> ➔ <u>次期計画概要案作成時に整理</u> (引き続き計画に記載する場合は、重要度に関する行政と府民意識との乖離について検証し、次期計画の見直しに反映。)
	進んでいない	<ul style="list-style-type: none">・ <u>府として、取組の重要度を再検証し、次期計画に引き続き記載するか検討。</u> ➔ <u>次期計画概要案作成時に整理</u> (引き続き計画に記載する場合は、重要度に関する行政と府民意識の乖離や府民が進んでいないと感じる理由を検証し、府民のニーズに対応するための具体策や手法を検討。次期計画の見直しに反映。)

(結果①) 【脱炭素社会の実現】 進んでいる／進んでいない／重要だと考える取組 11

- 「**地産地消の取組**」「**省エネ家電への買換えや、建物の断熱化や太陽光パネルの設置**」は取組が進んでいると認識されているとともに、今後重要であるとの認識も高い。
- 「**モーダルシフトやムーブシェア、エコドライブ、次世代自動車への買換え**」は取組が進んでいないと認識されているとともに、今後重要であるとの認識が高い。
- 「**宅配ボックスの活用等による再配達削減**」は取組が進んでいると認識されている一方、重要だと考える取組の下位に位置づいている。
- 「**環境に優しい商品を取り扱う企業の成長**」は取組が進んでいないと認識されているとともに、重要だと考える取組の下位に位置づいている。

【取組が進んでいると感じる取組】

取組	n=	1～3位 合算		1位
		スコア	順位	
③ 地産地消の取組	1,000	56.5	16.4	
① 省エネ家電への買換えや、建物の断熱化や太陽光パネル設置	1,000	54.7	35.1	
② 省エネ機器への設備投資等、企業における取組	1,000	38.9	6.0	
⑤ 宅配ボックスの活用や宅配便の受取方法の多様化等による再配達削減	1,000	37.0	13.5	
④ モーダルシフトやムーブシェア、エコドライブ、次世代自動車買換え	1,000	32.7	9.1	
⑥ 効果的・効率的な省エネサービスの導入や環境に優しい商品を取り扱う企業の成長	1,000	20.3	3.6	
⑩ ノンフロン型機器（冷蔵庫等）の利用促進	1,000	19.1	6.8	
⑪ CO2を吸収する森林の拡大や保全・整備等の促進	1,000	15.7	4.4	
⑦ 再生可能エネルギーの導入や熱利用の促進	1,000	10.0	2.2	
⑧ 再生可能エネルギー設備の適切な保守点検や修繕等による長期安定的活用	1,000	8.0	1.5	
⑨ 水素エネルギーに対する正しい理解促進と社内における需要拡大	1,000	7.1	1.4	

【取組が進んでいないと感じる取組】

取組	n=	1～3位 合算		1位
		スコア	順位	
④ モーダルシフトやムーブシェア、エコドライブ、次世代自動車買換え	1,000	43.3	23.9	
⑥ 効果的・効率的な省エネサービスの導入や環境に優しい商品を取り扱う企業の成長	1,000	36.8	5.6	
⑦ 再生可能エネルギーの導入や熱利用の促進	1,000	35.0	11.9	
⑤ 宅配ボックスの活用や宅配便の受取方法の多様化等による再配達削減	1,000	33.3	7.6	
⑨ 水素エネルギーに対する正しい理解促進と社内における需要拡大	1,000	29.8	8.0	
② 省エネ機器への設備投資等、企業における取組	1,000	24.0	10.5	
⑪ CO2を吸収する森林の拡大や保全・整備等の促進	1,000	23.5	7.8	
⑧ 再生可能エネルギー設備の適切な保守点検や修繕等による長期安定的活用	1,000	21.1	5.0	
① 省エネ家電への買換えや、建物の断熱化や太陽光パネル設置	1,000	20.0	11.7	
⑩ ノンフロン型機器（冷蔵庫等）の利用促進	1,000	18.2	3.9	
③ 地産地消の取組	1,000	15.1	4.1	

【重要だと考える取組】

※1～3位合算のスコアで並び替え

取組	n=	1～3位 合算		1位
		スコア	順位	
① 省エネ家電への買換えや、建物の断熱化や太陽光パネル設置	1,000	50.7	37.6	
③ 地産地消の取組	1,000	42.8	9.4	
④ モーダルシフトやムーブシェア、エコドライブ、次世代自動車買換え	1,000	38.2	13.0	
② 省エネ機器への設備投資等、企業における取組	1,000	33.1	6.0	
⑪ CO2を吸収する森林の拡大や保全・整備等の促進	1,000	25.7	7.0	
⑦ 再生可能エネルギーの導入や熱利用の促進	1,000	25.3	8.2	
⑤ 宅配ボックスの活用や宅配便の受取方法の多様化等による再配達削減	1,000	22.7	6.8	
⑧ 再生可能エネルギー設備の適切な保守点検や修繕等による長期安定的活用	1,000	19.3	3.3	
⑥ 効果的・効率的な省エネサービスの導入や環境に優しい商品を取り扱う企業の成長	1,000	16.8	3.2	
⑩ ノンフロン型機器（冷蔵庫等）の利用促進	1,000	15.0	4.2	
⑨ 水素エネルギーに対する正しい理解促進と社内における需要拡大	1,000	10.4	1.5	

(結果①) 【脱炭素社会の実現】基本計画見直しへの方向性

本日は、こちらの内容を中心に審議

取組	府民の感覚	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none">地産地消の取組省エネ家電への買換えや建物の断熱化や太陽光パネルの設置	今後の重要度高	<ul style="list-style-type: none">次期計画へ引き続き記載。
<ul style="list-style-type: none">モーダルシフトやムーブシェア、エコドライブ、次世代自動車へ買替え	進んでいない	<ul style="list-style-type: none">次期計画へ引き続き記載。 (府民が進んでいないと感じる理由を検証し、府民のニーズに対応するための具体策や手法を検討。次期計画の見直しに反映。)
<ul style="list-style-type: none">宅配ボックスの活用等による再配達削減	今後の重要度高	<ul style="list-style-type: none">府として、取組の重要度を再検証し、次期計画の見直しに反映。 ➔ 次期計画概要案作成時に整理 (引き続き計画に記載する場合は、重要度に関する行政と府民意識との乖離について検証し、次期計画の見直しに反映。)
<ul style="list-style-type: none">効果的・効率的な省エネサービスの導入や環境に優しい商品を取り扱う企業の成長	今後の重要度低	<ul style="list-style-type: none">府として、取組の重要度を再検証し、次期計画の見直しに反映。 ➔ 次期計画概要案作成時に整理 (引き続き計画に記載する場合は、重要度に関する行政と府民意識の乖離や府民が進んでいないと感じる理由を検証し、府民のニーズに対応するための具体策や手法を検討。次期計画の見直しに反映。)

「進んでいる」「進んでいない」を選択した理由／重要と考える取組（自由記述）

府民が今後重要と考える取組として選択した3つの取組について、自由記述から得た府民の考える課題感を踏まえ、以下とおり重要と思われる観点を整理。

- 食料自給率やオーバーツーリズム、地域活性化といった他課題解決との同時解決
- 太陽光パネルの設置に伴う景観の破壊や廃棄、森林伐採等の課題解決を行うなど、長期的視点での施策の展開
- 現役世代への啓発・教育に加え、次世代への教育の機会の創出
- 積極的に取り組む府民や事業者がメリットを感じられる施策の展開により、意識改革・行動変容を促進

	「進んでいる」として選択	「進んでいない」として選択	今後重要と考える取組	
府内産の食材や木材を積極的に消費する 地産地消の取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校の給食でよく地産地消という言葉を目にする ● 道の駅等で京都産の野菜などをよく目にする ● 府の広報誌ポスターで見かける 	<ul style="list-style-type: none"> ● 啓発活動が弱い ● 購入費用が高額 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地産地消等による地域活性化 ● 食料自給率アップ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 次世代への教育 ● イベントでの啓発等を通じた府民への浸透 ● 補助金等による費用負担軽減 ● ポイントがつくなどの府民のメリットとなる施策展開
高効率な 省エネ家電への買換え や、 建物の断熱化 や 太陽光パネルの設置	<ul style="list-style-type: none"> ● 補助金や啓発ポスターをよく目にする ● 実際に二重窓の設置や省エネ家電購入などを行った 	<ul style="list-style-type: none"> ● 耐用年数が過ぎた太陽光パネルの廃棄問題や森林破壊など設置に伴う課題解決が進んでいない ● 設置等のための費用が高額 	<ul style="list-style-type: none"> ● 太陽光パネルの設置や廃棄に伴う問題解決など長期的視点に立った施策の展開 	
モーダルシフト や カーシェアリング 、 エコドライブ 、 次世代自動車への買換え	<ul style="list-style-type: none"> ● シェアサイクルやカーシェアリングをよく見かける ● 公共交通や自転車利用、徒歩推奨を見かけた 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通に携わる人員不足 ● オーバーツーリズムで公共交通機関の利用が困難 ● 自転車が安心して走れる道路整備が進んでいない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 充電設備の拡充 	

- 「**廃棄物の効率的な2R（発生抑制・再利用）の推進**」「**最新の廃棄物処理情報の集約化機能の強化、廃棄物対策プラットフォームの構築**」は取組が進んでいると認識されているとともに、今後重要であるとの認識も高い。
- 「**人・社会・地域・環境に配慮した消費行動（エシカル消費）の理念の普及**」は取組が進んでいないと認識されているとともに、今後重要であるとの認識が高い。
- 「**環境負荷の少ない物品やサービスの普及促進**」「**海岸漂着物等の回収や実施や流域一帯の発生抑制の取組促進**」は取組が進んでいないと認識されているとともに、重要だと考える取組の下位に位置づいている。

【取組が進んでいると感じる取組】

	n=	1～3位 合算	1位
⑥ レジ袋やペットボトル等の使い捨てプラスチックの削減	1,000	54.0	33.1
③ 2R優先の循環型社会に資するビジネスの育成支援	1,000	53.9	10.4
① 廃棄物の効率的な2R（発生抑制・再利用）の推進	1,000	43.3	31.3
② 最新の廃棄物処理情報の集約化機能の強化、廃棄物対策プラットフォームの構築	1,000	40.8	6.5
④ 人・社会・地域・環境に配慮した消費行動（エシカル消費）の理念の普及	1,000	39.2	10.4
⑦ 生産、製造、販売、消費等の各段階関係者の相互連携による食品ロス削減の促進	1,000	30.0	4.2
⑤ 環境負荷の少ない物品やサービスの普及を促進	1,000	15.1	1.4
⑧ 農業分野から排出されるプラスチック類の資源循環の促進、家畜排せつ物処理施設等の整備と生産される堆肥の利用促進	1,000	15.1	1.6
⑨ 海岸漂着物等の回収・処理の実施や流域一帯の発生抑制の取組促進	1,000	8.7	1.1

【取組が進んでいないと感じる取組】

	n=	1～3位 合算	1位
⑤ 環境負荷の少ない物品やサービスの普及を促進	1,000	46.7	7.9
④ 人・社会・地域・環境に配慮した消費行動（エシカル消費）の理念の普及	1,000	36.8	25.2
⑨ 海岸漂着物等の回収・処理の実施や流域一帯の発生抑制の取組促進	1,000	35.5	11.4
⑥ レジ袋やペットボトル等の使い捨てプラスチックの削減	1,000	32.0	6.5
⑧ 農業分野から排出されるプラスチック類の資源循環の促進、家畜排せつ物処理施設等の整備と生産される堆肥の利用促進	1,000	31.7	7.9
② 最新の廃棄物処理情報の集約化機能の強化、廃棄物対策プラットフォームの構築	1,000	31.3	8.6
① 廃棄物の効率的な2R（発生抑制・再利用）の推進	1,000	30.5	16.5
⑦ 生産、製造、販売、消費等の各段階関係者の相互連携による食品ロス削減の促進	1,000	29.2	7.7
③ 2R優先の循環型社会に資するビジネスの育成支援	1,000	26.3	8.3

【重要だと考える取組】

※1～3位合算のスコアで並び替え

	n=	1～3位 合算	1位
① 廃棄物の効率的な2R（発生抑制・再利用）の推進	1,000	51.7	38.4
④ 人・社会・地域・環境に配慮した消費行動（エシカル消費）の理念の普及	1,000	43.3	15.3
② 最新の廃棄物処理情報の集約化機能の強化、廃棄物対策プラットフォームの構築	1,000	42.2	7.6
③ 2R優先の循環型社会に資するビジネスの育成支援	1,000	42.0	7.8
⑥ レジ袋やペットボトル等の使い捨てプラスチックの削減	1,000	34.6	13.8
⑦ 生産、製造、販売、消費等の各段階関係者の相互連携による食品ロス削減の促進	1,000	34.2	8.7
⑤ 環境負荷の少ない物品やサービスの普及を促進	1,000	22.3	3.3
⑧ 農業分野から排出されるプラスチック類の資源循環の促進、家畜排せつ物処理施設等の整備と生産される堆肥の利用促進	1,000	17.3	2.5
⑨ 海岸漂着物等の回収・処理の実施や流域一帯の発生抑制の取組促進	1,000	12.4	2.6

(結果②) 【循環型社会の実現】基本計画見直しへの方向性

本日は、こちらの内容を中心に審議

取組	府民の感覚		今後の方向性
<ul style="list-style-type: none">廃棄物の効果的な2R（発生抑制・再利用）の推進最新の廃棄物処理情報の集約化機能の強化、廃棄物対策プラットフォームの構築	今後の重要度	進んでいる	<ul style="list-style-type: none"><u>次期計画へ引き続き記載。</u>
<ul style="list-style-type: none">人・社会・地域・環境に配慮した消費行動（エシカル消費）の理念の普及	高	進んでいない	<ul style="list-style-type: none"><u>次期計画へ引き続き記載。</u> (府民が進んでいないと感じる理由を検証し、府民のニーズに対応するための具体策や手法を検討。次期計画の見直しに反映。)
— (該当なし)	今後の重要度	進んでいる	<ul style="list-style-type: none"><u>府として、取組の重要度を再検証し、次期計画の見直しに反映。</u> ➔ <u>次期計画概要案作成時に整理</u> (引き続き計画に記載する場合は、重要度に関する行政と府民意識との乖離について検証し、次期計画の見直しに反映。)
<ul style="list-style-type: none">環境負荷の少ない物品やサービスの普及を促進海岸漂着物等の回収や実施や流域一帯の発生抑制の取組促進	低	進んでいない	<ul style="list-style-type: none"><u>府として、取組の重要度を再検証し、次期計画の見直しに反映。</u> ➔ <u>次期計画概要案作成時に整理</u> (引き続き計画に記載する場合は、重要度に関する行政と府民意識の乖離や府民が進んでいないと感じる理由を検証し、府民のニーズに対応するための具体策や手法を検討。次期計画の見直しに反映。)

府民が今後重要と考える取組として選択した3つの取組について、自由記述から得た府民の考える課題感を踏まえ、以下とおり重要と思われる観点を整理。

- 施策による効果を「見える化」するなど、府民や事業者に分かりやすい情報発信
- 現役世代への啓発・教育に加え、次世代への教育の機会の創出
- 積極的に取り組む府民や事業者がメリットを感じられる施策の展開により、意識改革・行動変容を促進

	「進んでいる」として選択	「進んでいない」として選択	今後重要と考える取組	
新しい技術の開発、実用化、普及促進による廃棄物の 効率的な2R（発生抑制・再利用）の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● ペットボトル回収機の設置や希少金属回収・小型家電等の回収窓口が増えてきている ● ニュースや新聞等で見かける 	<ul style="list-style-type: none"> ● 技術開発の遅れ ● 中小事業者の取組が不十分 ● 啓発活動の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ● アップサイクルの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 資源ごみの買取など、取り組む者にインセンティブのある仕組みづくり ● 次世代への教育 ● 府民の意識改革 ● 施策実施後の効果の共有等府民等への情報発信
「もったいない」の精神や地域の活性化や雇用などを含む、 人・社会・地域・環境に配慮した消費行動（エシカル消費）の理念の普及	<ul style="list-style-type: none"> ● 「てまえどり」やフードドライブの取組などよく目にする ● 学校の授業でも取り扱われている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 個人の価値観に踏み込むことは困難 ● 啓発活動の不足 ● 消費者と企業の意識が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄寸前の食品の値下げなど食品ロス削減 	
最新の廃棄物処理情報の集約化機能の強化 に加え、 廃棄物対策プラットフォームの構築	<ul style="list-style-type: none"> ● ニュースや新聞等で見かける ● スーパー等でエコステーションが当たり前になっている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 費用がかかるため、簡単には取り組みづらい ● 情報不足 	—	

- 「有害化学物質（ダイオキシン類、貴金属等）の適正管理の推進」、「環境影響評価制度の取組の展開」、「環境モニタリング結果の分かりやすい情報発信とモニタリング技術向上のための調査研究等の実施」は取組が進んでいると認識されているとともに、今後重要であるとの認識も高い。
- 「広域的・技術的な廃棄物処理体制の強化」、「災害に強い地域づくりの推進」は取組が進んでいないと認識されているとともに、重要だと考える取組の下位に位置づいている。

【取組が進んでいると感じる取組】

	n=	1～3位 合算	1位
有害化学物質 ③ (ダイオキシン類、重金属等) の 適正管理の推進	1,000	62.8	12.8
② 環境影響評価制度の 取組の展開	1,000	58.6	11.9
① 環境モニタリング結果の分かりやすい 情報発信とモニタリング技術向上の ための調査研究等の実施	1,000	56.6	39.5
⑤ 太陽光発電設備・蓄電池等の 導入を促進し、災害に強い地域づくり の推進	1,000	34.4	10.5
④ 京都府の地域特性に応じた 気候変動適応策の 推進や適応ビジネスの育成	1,000	33.9	8.4
⑥ 災害時の広域的・技術的な 廃棄物処理体制の強化	1,000	29.3	7.7
⑦ 廃棄物の不法投棄等の 監視指導体制強化による 早期発見・未然防止	1,000	24.3	9.2

【取組が進んでいないと感じる取組】

	n=	1～3位 合算	1位
⑥ 災害時の広域的・技術的な 廃棄物処理体制の強化	1,000	57.3	7.6
⑤ 太陽光発電設備・蓄電池等の 導入を促進し、災害に強い地域づくり の推進	1,000	56.9	13.0
④ 京都府の地域特性に応じた 気候変動適応策の 推進や適応ビジネスの育成	1,000	54.1	35.2
⑦ 廃棄物の不法投棄等の 監視指導体制強化による 早期発見・未然防止	1,000	41.1	13.9
② 環境影響評価制度の 取組の展開	1,000	33.5	9.5
③ 有害化学物質 (ダイオキシン類、重金属等) の 適正管理の推進	1,000	29.2	9.1
① 環境モニタリング結果の分かりやすい 情報発信とモニタリング技術向上の ための調査研究等の実施	1,000	27.9	11.7

【重要だと考える取組】

※1～3位合算のスコアで並び替え

	n=	1～3位 合算	1位
有害化学物質 ③ (ダイオキシン類、重金属等) の 適正管理の推進	1,000	58.4	13.5
② 環境影響評価制度の 取組の展開	1,000	52.9	12.1
① 環境モニタリング結果の分かりやすい 情報発信とモニタリング技術向上の ための調査研究等の実施	1,000	49.6	36.3
④ 京都府の地域特性に応じた 気候変動適応策の 推進や適応ビジネスの育成	1,000	45.1	15.6
⑤ 太陽光発電設備・蓄電池等の 導入を促進し、災害に強い地域づくり の推進	1,000	37.8	11.0
⑥ 災害時の広域的・技術的な 廃棄物処理体制の強化	1,000	32.5	4.5
⑦ 廃棄物の不法投棄等の 監視指導体制強化による 早期発見・未然防止	1,000	23.7	7.0

(結果③) 【安心・安全な暮らしの実現】基本計画見直しへの方向性

本日は、こちらの内容を中心に審議

取組	府民の感覚		今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> 有害化学物質（ダイオキシン類、重金属等）の適正管理の推進 環境影響評価制度の取組の展開 環境モニタリング結果の分かりやすい情報発信とモニタリング技術向上のための調査研究等の実施 	今後の重要度	進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <u>次期計画へ引き続き記載。</u>
—（該当なし）	高	進んでいない	<ul style="list-style-type: none"> <u>次期計画へ引き続き記載。</u> （府民が進んでいないと感じる理由を検証し、府民のニーズに対応するための具体策や手法を検討。次期計画の見直しに反映。）
—（該当なし）	今後の重要度	進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <u>府として、取組の重要度を再検証し、次期計画の見直しに反映。</u> ➔ <u>次期計画概要案作成時に整理</u> （引き続き計画に記載する場合は、重要度に関する行政と府民意識との乖離について検証し、次期計画の見直しに反映。）
<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電設備・蓄電池等の導入を促進し、災害に強い地域づくりの推進 災害時の広域的・技術的な廃棄物処理体制の強化 	低	進んでいない	<ul style="list-style-type: none"> <u>府として、取組の重要度を再検証し、次期計画の見直しに反映。</u> ➔ <u>次期計画概要案作成時に整理</u> （引き続き計画に記載する場合は、重要度に関する行政と府民意識の乖離や府民が進んでいないと感じる理由を検証し、府民のニーズに対応するための具体策や手法を検討。次期計画の見直しに反映。）

「進んでいる」「進んでいない」を選択した理由／重要と考える取組（自由記述）

府民が今後重要と考える取組として選択した3つの取組について、自由記述から得た府民の考える課題感を踏まえ、以下とおり重要と思われる観点を整理。

- 法令に基づく制度や環境モニタリング結果の府民や事業者への分かりやすい情報発信
- 引き続き、計画的な立入検査等を通じ、環境汚染物質の適正管理について事業者指導を実施
- 現役世代への啓発・教育に加え、次世代への教育の機会の創出

	「進んでいる」として選択	「進んでいない」として選択	今後重要と考える取組	
環境リスクの高い 有害化学物質（ダイオキシン類、重金属等）の適正管理 の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● ニュースや広報等によく目にする ● 規制が厳しくなっている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 広報不足等により知らない ● 事業者への指導・教育ができていない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 違反業者への罰則強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 次世代への教育 ● 府の積極的な情報発信
環境影響評価制度の取組の展開	<ul style="list-style-type: none"> ● ニュースや広報等によく目にする ● 環境影響評価の取組がされている ● 住民への説明がある 	<ul style="list-style-type: none"> ● 制度を知らない ● 更なる取組が必要 		
大気や水質等の 環境モニタリング結果の分かりやすい情報発信とモニタリング技術向上のための調査研究等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ● ニュースや広報等によく目にする ● PFAS情報等が発信されている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 広報不足等により知らない ● 専門用語がわかりにくい ● 結果をわかりやすく公表してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境モニタリング結果をわかりやすく知らせる仕組み 	

進んでいる／進んでいない／重要だと考える取組

- 「持続可能な社会の実現」に向けて、取組が進んでいる、進んでいない、重要だと考える取組について調査
- 「里山林や耕作放棄地の再生、里地域への積極的な関与」、「生物の生息・生育空間のつながりや配置の回復、原始的な生息環境の保全」、「野生鳥獣の適切な個体数管理」は取組が進んでいると認識されているとともに、今後重要であるとの認識も高い。
- 「木材の地産地消の推進」は、取組が進んでいないと認識されているとともに、重要だと考える取組の下位に位置づいている。

[取組が進んでいると感じる取組]

	n=	1～3位 合算	1位
② 里山林や耕作放棄地の再生、 里地域への積極的な関与	1,000	57.0	11.5
① 生物の生息・生育空間のつながり 配置の回復、原始的な生息環境の保全	1,000	55.8	42.2
③ 野生鳥獣の適切な個体数管理	1,000	48.8	6.9
④ 人と森をつなぐ取組を推進	1,000	31.9	8.6
⑤ 都市と農村との交流を促進し、 地域の魅力向上や活性化を推進	1,000	27.4	9.8
⑥ 木材の地産地消の推進	1,000	21.7	6.3
⑧ 生物多様性の効果的な保全と利活用、 自然環境学習や普及啓発を推進	1,000	18.2	4.4
⑦ 生物多様性・生物生産性が確保された 「豊かな京都の里海」の実現	1,000	15.2	3.4
⑩ 外来生物の侵入等を防ぎ、 在来の生態系への影響抑制	1,000	13.1	5.0
⑨ 生物多様性を実感できるような環境学習の 充実、生物多様性保全に対する気運醸成	1,000	11.0	2.0

[取組が進んでいないと感じる取組]

	n=	1～3位 合算	1位
⑤ 都市と農村との交流を促進し、 地域の魅力向上や活性化を推進	1,000	46.8	9.5
⑥ 木材の地産地消の推進	1,000	43.7	7.8
④ 人と森をつなぐ取組を推進	1,000	43.3	28.3
⑦ 生物多様性・生物生産性が確保された 「豊かな京都の里海」の実現	1,000	27.0	7.9
③ 野生鳥獣の適切な個体数管理	1,000	26.5	9.8
⑩ 外来生物の侵入等を防ぎ、 在来の生態系への影響抑制	1,000	25.4	10.6
⑧ 生物多様性の効果的な保全と利活用、 自然環境学習や普及啓発を推進	1,000	24.8	5.2
② 里山林や耕作放棄地の再生、 里地域への積極的な関与	1,000	23.3	8.7
⑨ 生物多様性を実感できるような環境学習の 充実、生物多様性保全に対する気運醸成	1,000	21.7	3.6
① 生物の生息・生育空間のつながり 配置の回復、原始的な生息環境の保全	1,000	17.6	8.6

[重要だと考える取組]

※1～3位合算のスコアで並び替え

	n=	1～3位 合算	1位
② 里山林や耕作放棄地の再生、 里地域への積極的な関与	1,000	57.6	14.8
① 生物の生息・生育空間のつながり 配置の回復、原始的な生息環境の保全	1,000	56.0	43.6
③ 野生鳥獣の適切な個体数管理	1,000	47.4	7.3
④ 人と森をつなぐ取組を推進	1,000	34.1	9.8
⑤ 都市と農村との交流を促進し、 地域の魅力向上や活性化を推進	1,000	23.0	6.0
⑩ 外来生物の侵入等を防ぎ、 在来の生態系への影響抑制	1,000	20.5	6.5
⑦ 生物多様性・生物生産性が確保された 「豊かな京都の里海」の実現	1,000	17.4	2.8
⑥ 木材の地産地消の推進	1,000	16.7	4.9
⑧ 生物多様性の効果的な保全と利活用、 自然環境学習や普及啓発を推進	1,000	15.4	2.6
⑨ 生物多様性を実感できるような環境学習の 充実、生物多様性保全に対する気運醸成	1,000	11.8	1.6

(結果④) 【自然と生活・文化が共存共栄する持続可能な社会の実現】基本計画見直しへの方向性

本日は、こちらの内容を中心に審議

取組	府民の感覚		今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> 里山林や耕作放棄地の再生、里地域への積極的な関与 生物の生息・生育空間のつながりや配置の回復及び原生的な生息環境の保全 野生鳥獣の適切な個体数管理 	今後の重要度	進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <u>次期計画へ引き続き記載。</u>
— (該当なし)		進んでいない	<ul style="list-style-type: none"> <u>次期計画へ引き続き記載。</u> (府民が進んでいないと感じる理由を検証し、府民のニーズに対応するための具体策や手法を検討。次期計画の見直しに反映。)
— (該当なし)	今後の重要度	進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <u>府として、取組の重要度を再検証し、次期計画の見直しに反映。</u> ➔ <u>次期計画概要案作成時に整理</u> (引き続き計画に記載する場合は、重要度に関する行政と府民意識との乖離について検証し、次期計画の見直しに反映。)
<ul style="list-style-type: none"> 木材の地産地消の推進 		進んでいない	<ul style="list-style-type: none"> <u>府として、取組の重要度を再検証し、次期計画の見直しに反映。</u> ➔ <u>次期計画概要案作成時に整理</u> (引き続き計画に記載する場合は、重要度に関する行政と府民意識の乖離や府民が進んでいないと感じる理由を検証し、府民のニーズに対応するための具体策や手法を検討。次期計画の見直しに反映。)

「進んでいる」「進んでいない」を選択した理由／重要と考える取組 (自由記述)

府民が今後重要と考える取組として選択した3つの取組について、自由記述から得た府民の考える課題感を踏まえ、以下とおり重要と思われる観点を整理。

- 里地里山等を府民が適正に利用していくことによる保全の推進
- 開発に伴う景観の破壊や自然破壊等の課題解決を行うなど、長期的視点での施策の展開
- 現役世代への啓発・教育に加え、次世代への教育の機会の創出
- 積極的に取り組む府民や事業者がメリットを感じられる施策の展開により、意識改革・行動変容を促進

	「進んでいる」として選択	「進んでいない」として選択	今後重要と考える取組	
<p>里山林や耕作放棄地の再生、自然体験・活用、野生鳥獣の個体数管理等を通じた、里地域への積極的な関与</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ニュース等でよく目にする ● 地元でのイベント等、目にする機会がある 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の過疎化などによる担い手不足 ● 耕作放棄地等をよく目にする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保全だけでなくレジャー等での活用推進 ● 里山間をつなぐ山間部の登山道整備 	<ul style="list-style-type: none"> ● 次世代への教育 ● 講演会やオンライン学習会など気軽に学べる機会が必要 ● ポイントがつかなどの府民のメリットとなる施策展開 ● 情報発信の強化 ● 担い手となる若者が取り組める仕組みづくり
<p>森里川海における生物の生息・生育空間のつながりや配置の回復及び原生的な生息環境の保全等の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ニュース等でよく目にする ● 鴨川の整備など、身近に取組が行われていることを実感する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の過疎化などによる担い手不足 ● 宅地開発等により山の切り崩しを目にする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 開発事業者の里山保護に係る費用負担 	
<p>I C T 技術を活用した効率的な有害鳥獣の捕獲や生息域把握等による野生鳥獣の適切な個体数管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ニュース等でよく目にする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 外来種や有害鳥獣をよく目にする ● 施策の内容や実施による効果等が不明 ● I C T 技術が未熟 	<ul style="list-style-type: none"> ● 外来種対策の強化 	

■ 選択式回答の項目

● 認知度・評価調査

「プラスチックごみの削減」、「食品ロスの削減」など、一部の取組は認知度が高かったが、全体的に府の取組の認知度が低い。

⇒**全体的に情報発信の強化等が必要**

● 個別取組が進んでいる（いない）と感じる+重要だと考える取組の調査

✓ 進んでいないとされた取組でも、京都府環境基本計画（第3次）の進捗状況（資料2、後に説明）では、実施済み（○）の評価がほとんどであり、府民意識と乖離がある。

⇒**取組だけでなく成果に着目した指標が必要（次回以降議論）**

✓ 「取組が進んでいない」+「重要と考える」取組は、計画の主役である府民のニーズに答えられていない。

⇒**府民のニーズに対応するための具体策や手法を見直す必要**

■ 自由記載の項目

府民目線で、進んでいると評価する理由、進んでいない取組の課題、現行の京都府環境基本計画（第3次）に含まれない取組も含め今後重要と考える取組について、貴重な意見をいただいた。

● 進んでいるとして選択した理由

府民が取組を評価する指標として、ポスターなどの啓発や報道などを目にすることや学校の授業で取り扱われることが挙げられた

⇒**府民への情報発信の手法として参考とする**

● 進んでいないとして選択した理由

⇒**取組の推進に当たっての課題として参考とする**

● 今後重要と考えられる取組

✓ 各分野で個別に関係するもの

例：太陽光パネルの廃棄問題、外来種対策の強化 など

✓ 各分野共通するもの

・現役世代への啓発・教育に加え、次世代への教育の機会の創出

・府民や事業者にインセンティブのある施策展開やイベントでの啓発等を通じた府民等の意識向上

・施策実施後の効果共有などの府民等への情報発信

⇒**計画の見直しに反映していく。**